

新 郡市医師会長 インタビュー

第 4 回 宇部市医師会長 黒川 泰 先生

と き 令和元年 5 月 16 日 (木)

ところ 宇部市医師会館

〔聞き手：広報委員 吉川 功一〕



吉川委員 今回は昨年 6 月に宇部市医師会の会長となりました黒川 泰 先生にお話を伺いたいと思います。本日はお忙しい中、お時間を取っていただき、誠にありがとうございます。実は黒川先生は私にとって脳神経外科医の大先輩でいらして、私個人、以前より大変お世話になっております。数え切れないほどお酒の席などもご一緒させていただいておりますが、こうして会長室でお話させていただくと何か身の引き締まる思いがいたします。

それでは早速ですが、まず、新会長となられた時のご心境についてお聞かせください。

黒川会長 私自身には、もともと宇部市医師会の会長職というのは大変な重責というイメージがありました。会長職というものは、医師会活動をきちんと勉強してこられて、ご自分の中にしっかりと充実した中身を蓄えてこられた大先輩がやるもの、と考えていました。私はこれまで理事として通算 8 年間の経験しかなく、会長職は遠いものと考えていましたので、会長職に推された時には正直、戸惑いを感じていました。それでも根っからの楽天家で、あまり深刻に物事を考える性質ではありませんので、皆様が望まれるのならと引き

受けてしまいました。会長就任早々はほとんどのことが初めてのことでしたが、周囲からはこの会長を育ててやろうというふうに思われたのか、いろいろなところから多くの助言や意見をいただきました。会長職につくと、これほど多くの方々とお話をすることになるということは、そのとき初めて分りました。でも、いろいろなお話を伺うことができたことは、自分自身の中では最も勉強になる出会いであったと感じています。

吉川委員 黒川先生は開業なさる以前より理事として既に宇部市医師会でご活躍でしたし、後輩の私からみるとまさに適任という思いでしたが、やはり会長職となるとプレッシャーも大きいでしょうね。それでは宇部市医師会についてのご紹介をお願いいたします。

黒川会長 宇部市医師会は大正 11 年 (1922 年) の 1 月 9 日、宇部市制の誕生とほぼ同時期に設立され、もうすぐ 100 周年を迎えます。設立当初は 26 名でのスタートだったと伺っておりますが、平成 31 年 4 月 1 日時点では A 会員 145 名、B 会員 119 名、C 会員 39 名の合計 303 名となっています。平成 20 年度以降の会員数は、ほぼ

300 名から 320 名程度の数を維持しております。宇部市内には宇部市医師会以外にも山口大学医師会があり、さらに同じ医療圏に山陽小野田市と美祢市があるという少し複雑な環境の中で活動しています。

吉川委員 宇部市医師会は山口県の都市医師会のなかでも大所帯なわけですが、その特色、良い点、ぜひ他都市の先生方に自慢できるような点はどのようなところでしょうか。

黒川会長 宇部市医師会の特色でもあり、最も良い点の一つと考えておりますのは、宇部市行政との関係がうまくいっている点だと思います。宇部市医師会では、これまで多くの先輩方が市行政との太いパイプを作ることにより力を注いでこられました。その結果、医師会執行部あるいは市長が代わっても、常に緊密に連絡を取り合う関係が維持されています。ちなみに医師会総会の懇親会には、宇部市長を始めとして医療・福祉・保健・教育関連の市行政のトップ 20 名以上に毎年ご参加いただいております。また、年 1 回は医師会執行部と宇部市との合同協議会も開催しております。顔が見える関係を常に維持していますので、市行政からも、医療・福祉関連の施策を立案する際に、かなり早い段階から医師会としての意見を求められます。医師会としての考えを市民に還元するためには、このような関係を継続していくことは今後とも非常に重要なことだと考えています。

次に特色のある点は、地域連携活動に対する取り組みです。宇部市医師会では平成 3 年から病診連携総会を開催して地域連携をスタートさせました。この流れは、平成 11 年からの病院退院情報連絡システムの整備、平成 18 年の地域連携推進懇談会の設立、そして平成 25 年からの「さんさんネット」（宇部・山陽小野田・美祢圏域地域医療連携情報ネットワーク）の構築・運用開始へと繋がっています。平成 30 年度には、さんさんネットを利用して 1 年間に 1,943 症例の情報が病院からかかりつけ医に対して公開されています。また、脳卒中や大腿骨頸部骨折に関連する地域連携パスシステムについても、県下で最も早く整備

されて運用されています。山口大学病院、宇部興産中央病院、山口労災病院を核とした水準の高い医療を地域全体にいきわたらせるという観点からも、地域での情報連携システムについては、今後とも必要性がますます高まるものと考えています。

3 つ目の特色ですが、これは、会員が生涯教育を受けるための環境が整っている点だと思います。先程も触れましたように、すぐ近隣に山口大学病院があり、それ以外にも全国的あるいは国際的に医療をリードしておられるフロンランナーの先生方が市内の病院に多くいらっしゃいます。現在、宇部市医師会では会員の生涯教育に関連する勉強会を 7 つ運営していますが、これらの勉強会の演者や講師として、気軽に先生方にお越しいただいており、これは会員にとって大きなメリットです。

吉川委員 行政と医師会の連携が円滑に行われることは、市民の健康増進の役割を担う医師会としても大変素晴らしいことですね。

黒川会長 宇部市が街作りそのものを考えるときの各種会議等で、かなり中枢のところに宇部市医師会の代表を入れてもらっていますし、特に健康福祉面での施策では必ず宇部市医師会の意見を取り入れていただいております、大変ありがたいことだと思っております。

吉川委員 宇部市医師会とは別に山口大学医師会があるのも宇部市の特徴の一つですが、医療連携はもちろん、その他お互いの交流も盛んですね。

黒川会長 そうですね。交流と言えば「タウン・アンド・ガウン」（宇部市医師会員と山口大学医師の交流会）がその一つですね。大学のほぼすべての科から教授を含む各科 4 ～ 5 人ずつの先生方にお集まりいただき、必ず年 1 回交流を持っています。考えてみたら、大学内でもあれほど大勢の先生が一堂に会する機会はないかならないのではないのでしょうか。先端医療の話題、各専門分野の話から、かつての同僚・後輩などとの思い出話まで、かなり濃い情報交換ができる会ですね。

吉川委員 先程も出ました「さんさんネット」も徐々に磨きがかかってきました。

黒川会長 そうですね。病院間でやりとりする情報についても当初と比べてもかなり詳細な内容まで公開していただけるようになってきています。宇部興産中央病院の森谷浩四郎 理事が中心となって、山口大学、山口労災病院の担当者の方々にもご尽力いただき、大変ありがたく思っております。今後さらなる新たな展開も期待できるかもしれませんよ。

吉川委員 それは楽しみです。さて、会長に就任されてもうすぐ 1 年になりますが、当初の心境と比べ何か変化などあったでしょうか。

黒川会長 会長職に自分が推されることがはつきりしたのが、平成 29 年の 12 月頃でした。それから平成 30 年 2 月の臨時総会で正式に選出されて、6 月の定例総会で就任し、現在までほぼ 1 年が経過したわけですが、最初の 1 年半は大変長く感じました。はじめにも少し話しましたが、目の前にこれまで自分が関わってこなかった課題が常にある、これに対して責任ある対応を求められる、というような立場に身を置いたことがなかったのが、新しい経験を毎日重ねると一日一日が大変長く感じるものであることを初めて体験しました。今考えて見ますと、何とかやってこられたのは、一番には理事会メンバーの助言と協力があったためだと思います。執行部には会長以外に 2 名の副会長、11 名の理事がいてくれます。宇部市医師会では 1 か月に 2 回、理事会を開催しておりますが、私の就任後は理事会を報告中心から協議中心の会へと変革しようと動いてきましたし、現在ではベテランの理事から若手の理事まで、皆が活発に発言する環境を整えることができていのではないかと自負しています。彼らの意見が、うろうろしていた新米の医師会長を導いてくれているものと理解しています。自分自身に自信がついたとまでは言えませんが、この仲間とこの議論が継続できれば、方向を見失わないで医師会を牽引することができるのでは、との思いはあります。

吉川委員 堅苦しい話ばかりではいけないので、先生ご自身のことについてもお聞きしてよろしいでしょうか。はじめに申し上げたとおり、黒川先生は脳神経外科の大先輩ですので私はよく存知あげていますが、せっかくの機会ですのでこの場でもご出身などご自身のこと、趣味などもお聴かせください。

黒川会長 吉川先生は良くご存知と思いますが、私はもともと脳神経外科医です。出身は長崎県佐世保市で、高校までは長崎で、その後は山口大学への進学で山口県に参りました。長崎県での生活が 19 年、山口県での生活が 41 年で、もう完全に山口県人になったと自分自身では感じています。大学卒業後にいくつか病院を回った後に昭和 62 年から宇部興産中央病院の脳神経外科に勤務して、そのままほぼ 20 年間、脳卒中を中心に診療していました。この宇部興産中央病院勤務時代に宇部市医師会の理事を 2 年間経験したことが、その後の地域医療や地域連携を志すきっかけになっています。

趣味についてあまり自慢できるものはありませんが、10 代の頃から美術に関心がありました。病院時代には学会で訪れた街の美術館に行くことを楽しみにしていましたが、開業するとなかなか学会で遠出をするわけにもいきません。現在では、近隣の画廊などに顔を出して、少しずつ絵や工芸品を手に入れることが多くなっています。山口県出身の画家では香月泰男、他県の画家では福田平八郎や高山辰雄に惹かれます。

吉川委員 この会長室の壁にも立派な絵（香月泰男、舟越 桂、杉山 寧らの作品）が飾られていますね。

それでは、最後に今後のことについて、抱負などよろしくお願いします。

黒川会長 医師会長としても、あるいは山口県の一医師としても、今後最も重要なことは、いかにして地域の人的医療資源を確保するか、ということに尽きると考えています。先日の山口県医師会報の「今月の視点」の中で加藤智栄 県医師会専

務理事が述べておられましたが、医療圏別に見ると宇部・小野田医療圏の医師数が全国 25 位となっており、あたかも圏域内では医師は充足されているように見られているところもあるかと思います。しかし、この数は主に山口大学の医師数によってもたらされた数字上の誤解に過ぎません。医師会としては直接、医師の養成にかかわることは困難ですが、勤務医師会をサポートして勤務しやすい病院環境作りに協力することや、新規開業医や継承開業医が地域医療にスムーズに溶け込めるような配慮を継続していくことは必須のことと考えています。もちろん地域の看護力を維持するため

の看護学校の経営も継続していくつもりです。医師会立の看護学校を取り巻く状況には大変厳しいものがありますが、准看護科と看護科を備えた数少ない医師会立看護専門学校として、地域に根ざした看護師の養成をしっかりと行っています。

吉川委員 先生のますますのご活躍と宇部市医師会の発展を期待しております。本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。



**かなえない
未来がある。**



応援してください。
やまぎんも、私も。
石川 佳純



YAMAGUCHI
Financial Group



山口銀行
YAMAGUCHI BANK